

会 議 録

平成 30 年 8 月 10 日 作成

審議会等名	平成 30 年度 第 1 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 30 年 7 月 5 日 (木) 午後 2 時～ 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	無
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>五十嵐章雄委員長 倉品章副委員長 小林委員 近藤委員 関谷委員 山田委員 六原委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>恋塚生涯学習課長 齋藤生涯学習課長補佐 今井生涯学習推進係主任 柴嶺生涯学習推進係主事</p> <p>【指定管理者】</p> <p>北浦館長 菊崎業務責任者 竹内副責任者 村山副責任者 梅田副責任者</p>
協議題	<p>(1) 平成 29 年度の図書館利用状況について</p> <p>(2) 平成 30 年度の運営計画について</p> <p>(3) 平成 30 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(4) 第 2 次三条市子ども読書活動推進計画の進捗管理について</p> <p>(5) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
図書館長	それでは、これ以降の議事進行を委員長、副委員長にお任せする。
五十嵐委員長	協議題(1)「平成 29 年度の図書館利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成 29 年度の図書館利用状況」について説明)
五十嵐委員長	児童の数は増えている、漸増、若干増えていると。一般が減っているのは、原因は絶対数が減っているのか。
図書館長	毎月の推移を 3 年間、グラフにした。8 月と 2 月の数字が、昨年度は激減しているということが読み取れる。おそらく 8 月は猛暑だということで外出を控えるようなことがあった。図書館は 26 度のオアシスのため涼みに来てくださる方はいると思うが、やはり推移が気になる。2 月は大雪があり、数字としてはこういった形で、季節にのっとった動きがある。入館者数が少なくなると、貸出冊数なども同様に推移する。
五十嵐委員長	2 月は雪もあり、休館日もある。
山田委員	本当に駐車場がない。それも大きいと思う。
図書館長	2 月は駐車場が特に狭くなり、雪で埋もれてしまう。昨年度も除雪車を出して三条市にも協力いただいたが、記録的な降雪があり、本当に駐車はできないような状況だった。

六原委員	除雪も、市でも優先順位があると思う。学校関係や、そういうものの関係で。図書館がどの位置かは分からないが、職員の方が作業するというような量ではなかった。
五十嵐委員長	雪の捨て場がない。
六原委員	捨て場がない。まず道路自体も、私は栄地区だが、三条地区まで出てくるのにも道がすごく出てこれない日が何度もあった。そういうことを考えると、歩いてくる方も、あの雪の中を歩いてまで来て図書館まで来るのかと、疑問に感じる。
山田委員	2月の落ち込みは、ある程度仕方ないのでは。
五十嵐委員長	ただ、年々減っているというのは、パソコンなどに人を取られているということが考えられるのでは。原因がわからないと対策の立てようがない。自然減ということになれば、誰の責任でもないわけで。
山田委員	私自身、数年前は図書館で自分が読むための本を借りていたが、今は借りていない。2つ理由があり、一つは2週間の貸出期間。2週間で1冊の本を読みきれない。延長が面倒くさくなってしまったというのが一つ。それから、何かで「こういう本があるよ」と言われ、読みたいと思っても、図書館に行って所蔵を確かめるか、自分で検索するか面倒である。図書館に行かないとわからないのでは、「じゃあ読まなくてもいいや」というふうになってしまう。例えば三条の図書館にどんな本が今あるか、蔵書を家庭のパソコンなりで検索でき、貸出予約までできればよいのだが。
関谷委員	ネット予約というのは？
図書館長	できます。
山田委員	検索もできるか。
図書館長	書名とか作者名がわかれば、調べられます、ネットでできます。
山田委員	それは私が知らないだけなんですね。
図書館長	(図書館の) 周知不足だと思います。
山田委員	ひと手間が面倒くさくてやめてしまうので、それがわかっているならば、本の名前を聞いたとき、すぐパソコンで調べることができて、いいと思う。
六原委員	それはあまり周知されていない。ネット世代の子どもたちに、それができるかできないかも周知されていないのでは。
図書館長	本当にわかりやすいマニュアルというか、そういうものがあれば。
六原委員	探したい本があったら、自宅のインターネットから検索もできるし、予約もできるというような、カード番号を登録すればできるみたいなものが、子どもたち自身も知らないと思う。
五十嵐委員長	基本的に子どももできるのか。
図書館長	カードをお持ちならできます。
倉品副委員長	僕は使っていて、やはり便利だ。新刊は待ちの人数も出る。延長もで

	き、次の予約がなければOK と出るから便利だ。
五十嵐委員長	委員もやってみるべきだ。
六原委員	まずはやらないことには、簡単ですごくいいよっていうのを普及できない。小学校に行って、「そういうことを調べられるんだよ」って。ネットの予約もできると宣伝してもよいのか？
図書館長	はい。周知を、すぐPRをしたいと思う。
六原委員	「借りたい本があったら、ネット予約でもOK」みたいな感じの、「予約の仕方はこう」みたいな感じで書いてあると、キャッチできる。
五十嵐委員長	ちょっと大きめに。あるいはカラーでドンと。
六原委員	「知ってましたか、ネットで予約もできるんですよ」みたいな。
図書館長	私たちの努力不足と言える側面もあるというふうに、しっかり受け止めてさせていただく。ありがとうございます。
五十嵐委員長	ネット社会になり、その辺を上手に使うと、もう少し増えるかと。テレビで何か面白そうな本があったら、すぐ調べられ、図書館にあるということがわかれば、借りに行こうとなり。いい方法と思う。
山田委員	この図書館では貸出数が減少しているが、ほかに伸びている図書館はあるのか。全国的な傾向なのか、それとも何かやっけていて、ここまで減らないまでも、何かそういう情報はあるのか。
図書館長	例えば新潟県立図書館の数字でも、やはり入館者数は減少傾向にあった。貸出がそれほど落ちておらず、貸出数は維持している。他館の例や、今回ご提案いただいたネットでできるとことを周知することで、貸出数の減少をとどめられたらと思っている。
倉品副委員	端的に言って、新しくできたところは増えているようだ。六日町、聖籠、新発田など。読書本来のこともあるけれども、そこでコーヒーを飲んだり、イベントがあったりで。だから三条ももうすぐではないか、何年か後には。
山田委員	魅力的な施設、例えばスーパーの隣にあると主婦層がどっと来ます。
倉品副委員長	六日町はそうだ。買い物帰りに。
山田委員	本当にいいと思う。何を抱き合わせにするか。
五十嵐委員長	話によると、理科センターという話だが。
山田委員	理科センター、皆さん、来ますかね？ もう少し人が来るようなのと抱き合わせにしたほうがいいのでは。
図書館長	調べた中では、新発田市の例は、やはり新しい、きれいな3階建てで、入館者がグッと伸びている。柏崎市は、三条よりも人口が少ないが、入館者、貸出数も少し上ということになる。その辺も勉強しなければいけないと思う。カフェをつくったときに、たくさん来ていただけののかなと思い、入館者数ということを目標にしてみたが、爆発的に増えなかった。今のネットで予約というふうなことも含めて、図書館機能として、やっぱり魅力を出さなければいけないのではないかと心に刻んでいる。
山田委員	カフェも2階の喫茶コーナーみたいな。これも中に入ると「自販機があ

	るんだな」「ここで飲めるんだな」とわかるが、外から行くと、わかりませんか。
図書館長	あまり看板を出していたりはしていない。
山田委員	もっとでかでかと看板が立つといい。
六原委員	大々的にするには、もっとグレードを上げないと。来館している人が利用する分には、「コーヒーの香りがしていいな」みたいな感じでよく言われる。
倉品副委員長	お昼をお持ちになって召し上がっている方もいる。あのスペースはいいのでは。(館内は) 飲食禁止なので。
五十嵐委員長	これから暑い日が続くようになると、涼みにいらっしゃる方もいるかもしれない。大事なことだと思う。 児童のことが私も気になっている。児童の冊数があまり減ってない、若干増えているということは、これは自動車文庫も含めての数字か。
図書館長	自動車文庫利用数で児童の数字は、母数があまり大きくないので、4月は下がっているように見えるが、場所が変わったり、一つ減るなどで大幅に変わってしまう。自動車文庫の児童は借りていただいているというふうに理解している。
六原委員	自動車文庫は各学校に行くときに、なにか鳴らしているのか。
図書館長	鳴る場合もある。
六原委員	楽しそうな音楽が鳴って「自動車文庫が来たよ」って感じで鳴るのか。
竹内サブチーフ	例えば市営住宅、曲淵市営住宅に行っているのだから、そこは近くに行くと音楽が鳴って、来ましたというふうにしてほしい。
五十嵐委員長	児童の数値は減ってないので、今の方法を継続してやっていただく。
図書館長	児童サービスを頑張っているつもりで、児童サービス部門にも貢献しているとは思いますが、それだけに捉われず戦略を考え、児童を中心に伸ばしていきたい。
五十嵐委員長	団体貸出は大きい。増えていって、いい傾向だと思う。特設読書会等の事業について、いかがか。
六原委員	将棋の藤井君や将棋がブレイクした。将棋の本はあるのか。
図書館長	あります。
六原委員	それが図書館にあるというのは、一般の人はわからないと来ない。
図書館長	奥まったコーナーだが、特集をしている。
六原委員	知らない限りは来ないし、知らせる方法だ。来たくなるような。
倉品副委員長	効果的なのは、やはりホームページか何かをしょっちゅう更新することでは。ただ、ホームページを見てくれないとどうしようもない。
五十嵐委員長	貸出冊数の増加の対策も含めて、やはりホームページは効果があるか。
図書館長	Twitter で知らせることも考えている。毎日更新しているので、活用して考えていきたい。
五十嵐委員長	いろいろな事業も考えてあると思うが、一生懸命やっているという感じで頭が下がる。

	(平成 30 年の事業計画について)
関谷委員	読み聞かせボランティアの立場から、初心者講座もあまり沢山お出でにならなかったし、その方たちもどこかグループに入られたかどうかわからない。私どものボランティアの中でやめる方も出て、あまり増えない。今年は初心者講座のほかに、経験者講座も開くそうだ。
六原委員	高齢化の問題もある。講座を聞きに来られる方に対する対応が適切であれば、各ボランティア団体の特色、日時、目的を、各スタッフが把握していると、お話を聞いたときに、「ここはどうですか」と紹介できる。 何かしたいなと思う方も、聞きに来られたりする方もいるのではと思う。おはなし会などなかなかメンバーが集まらないので、人が増えたらいいなと、心から思っている
菊崎チーフ	図書館での、読み聞かせボランティア講座は、初心者講座でも十数名とか、毎年来ていただいている。確かに図書館の読み聞かせボランティアさんに入られているっていうのは、来ていらっしゃる人数からすると、もしかすると少ないのかもしれない。学校や保育所にも、ボランティア団体に行っているが、個人個人のボランティアを集めている学校もあるのではないかな。学校での活動を目的に、経験のために図書館の講座に来ていているという方も、あるのではないかなと思う。全体として、図書館以外での活動を含めてのボランティアというところでは、受講している分だけ、活動としては増えているのではないかな。ただその活動の拠点が図書館ではないというところがあるのかなというふうに感じている。
六原委員	例えば受講した方に、フォローの手紙やメールで、「こんなものやっていますよ」「図書館のほうで、こんなのをまたやりますよ」と案内を出してはどうか。図書館ボランティア便りといった名称で受講後に。受けっ放しという形ではなく、その後もフォローして、「受けられてどうでした?」「ボランティアで活動している団体で、何月はこういうイベントをやっていますよ」としたらどうかと思った。メールでもいい。
山田委員	それに関連して個人でボランティア、例えば絵本の読み聞かせをして学校に入っている場合、必ず壁がある。選書にぶつかる、今までの自分の選書で、やり方でいいのかと。私は今、会に入っているが月 1 回、ほかの会員の方から「こんな本があるよ」と紹介や、読み聞かせをしてもらうと、非常に参考になる。そういう不安を抱えながら個人でやっているボランティアは、非常に多いのではないかな。そう考えると、個人でやっている方でも、どんな学校にどなたかを把握し情報交換や情報提供みたいなことをする必要があるのかもしれない。
五十嵐委員長	講習会にいらっしゃる方は、普通の人に比べればかなりボランティアをやろうという意思はあるわけだから、やはりフォローすると、何らかいいことがあるかもしれない。
六原委員	もう一步出てもらうような、手を引っ張るような。

五十嵐委員長	<p>そういうことで、よろしくお願いします。</p> <p>学校へ独自でボランティアに行っているという方がいるかもしれないという話だが、学校の現状をわかる範囲で、小林先生、いかがですか。</p>
小林委員	<p>ボランティア関係のお話も、学校の全体の中での担当が付くということもあり、その中でお任せしている。年度年度でメンバーの入れ替わりが少しあるようだが、サポートしていただいている。先日も、あるところからうちのほうに来ていただいた。</p>
倉品副委員長	<p>私も行かせてもらっているが、伝統的に親子読書会という一つの組織をもう何十年前からつくっている。保護者の方、お母さん方が多いが、おばあちゃんもいて16人ほど。メンバーがだんだん減ってきているが、月1回、朝の学習時間の前に15分間読み聞かせをやる。ちょうどお勤めする時間帯だから、なかなか厳しいところもあるが、ずっとやっている。一ついいところは、自分たちが読んだ本と、子どもたちの感想や動きを、簡単に2～3行メモしていく。それを年間で冊子にする。僕は1人でやっているから、いつも不安だけれども、その本を見ると、「ああ、1年生にはこんな本がある。受けたんだな」みたいな、そういうのが指針になって助かったということがある。統合する前は、四日町小も、南小もやっていた。ただ、人数が多すぎて、動きが取れないというか、リーダーがいなくなって厳しいという声も聞いた。各学校でもそういう動きは少しずつあるのではないか。</p>
近藤委員	<p>保護者読書で、保護者の方がボランティアをしているところもある。ある学校では1回、図書館のほうから道筋をつけてもらい、その学校独自で直接、会に頼むこともある。さまざまな形があるようだ。</p>
図書館長	<p>図書館スタッフもたくさん経験している。そういったことを共有させていただくこともできると思う。支援させていただければと思う。</p>
五十嵐委員長	<p>学校でやって人気があった本とかの、そういうリストの情報、資料を、公開というか、情報交換みたいにできると、また広がるような気がする。</p>
六原委員	<p>図書館でやっている、例えば老人施設とかのおはなしの出前では、何を、誰がしたか、どんなだったか書いて集めている。学校関係だと、やっぱり個人で行っていたり、同じ団体でも個々に行ったりするため、回数と人数だけは書くけど、何をやったかというのは、データは取っていない。だから児童とか子どものところに行ったときのデータも欲しいと思う。書かなきゃいけないと思うと、面倒だなと思ったりはするのだが。</p>
五十嵐委員長	<p>その報告が負担になって、またメンバーが減るなんていうと逆効果になるから、その辺は無理のない範囲で。</p> <p>近藤委員さん、いかがですか。何か来年度の計画についてとか、要望とかありましたら。</p>
近藤委員	<p>昨年度、読み聞かせボランティアが2人来て、子どもたちも大変喜んでいました。やはり言われたように、本選びに結構苦労されていた。私たちのほうで提示し、それを1カ月かけて、自宅で読んできていただいて、子</p>

	どもたちに読み聞かせる形を取った。慣れている方は、自分で聞いてほしいという絵本を持ってきてくださった。おばあちゃんと子どもたちの関係がすごくよくて、柔らかい感じで読み聞かすというのが子どもの心の中に響いたようで、読み手の方も「すごくいい経験でした」と言われた。機会があったらお願いしたいと思っている。
	(30年度の4月以降の利用状況)
五十嵐委員長	古本リサイクル大会は人気があるのか。
図書館長	毎回たくさん集まっているが、今回は地域連携により人が動いていた。とてもいいことではないかと思う。
山田委員	親子読書の日のおはなし会、今年は簡単な工作をするということで、いろいろ工夫されていると思う。私は6月23日に読み聞かせをさせていただいた。そのときは、子どもも5人ぐらい、大人も5人ぐらいいた。4月、5月は参加数がたいへん少ない。平日に、準備も図書館は大変では。今まで幹の会は毎月23日にやっていたが、今度、休日だけとなり、会の負担としては少なくなった。平日に図書館の方がやっていることは、初めてわかった次第。費用対効果ではないけれど、平日に人が来ないのに、やる意味があるのか。休日のPRをもっとするのも手ではないのか。
図書館長	23日というところにこだわってしまうと、どうしても平日になってしまう。委員がおっしゃるように、決められた23日ということを逸脱することができるのであれば、その前後の休日に実施ということも考えられると思う。相談しながらやっていきたい。
山田委員	なぜ毎月23日に親子読書の日の設定をするのかというところに立ち返って、毎月イベントをしなければならないのかを考えてみてはどうか。
倉品副委員長	私も大賛成。見直す時期なのでは。過去、これが毎年話題になり問題になっていた。現実的な問題でいえば、やはり休日。平日は親御さんも子どもも、授業があり来られない。やはり第三日曜日とか、そういった形のほうがよい。毎月第三日曜日は親子読書の日だというほうが、PRもできるし、浸透もするのでは。ぜひ再考を。
生涯学習課長	全く意味がないと僕は思う。この23日が、何かの日があって、決めているのかもしれないが、その週の土日でもいいと思う。多くの方に来てもらえるような仕掛けにしたほうが、体力を使った割には効果がないのであれば、もったいないと思う。今一度、そういったイベント、曜日等々も含め、もっとどうしたらいいのかというところに変えていきたいと思う。よろしくをお願いします。
山田委員	始まりは何だったのか。
菊崎チーフ	4月23日が国のこども読書の日に制定されている。
倉品副委員長	この日の前後に図書館ができた。初めて、明治になって。それをPRしている。全国的にもあまり浸透していない、あまり聞いたことがない。
五十嵐委員長	後でまた子ども読書推進計画が出てくるが、23日、認知度が、パーセンテージで言って1桁の前半ぐらいのところ、上がらない。

山田委員	そもそも親子読書の日で、何をさせたいのかというのがわからない。何を狙っているのかというのが。
五十嵐委員長	では23日を見直していただく。良い意見だと思う。
	(第二次三条市子ども読書活動推進計画について)
六原委員	27年度に協議した3年間、検証しているところで、今、3年目ということか。30年度が3年目。最終年度。県のほうでも動きがないわけか。
生涯学習課長	スタートした第一次のときは、三条市は新潟県内で早い部類の自治体だった。県がつくって、努力義務みたいな形で、三条市もこう策定しますというところからスタートしているが、県の第三次の策定がだいぶ遅れているらしい。
六原委員	一次、二次とも私は参加した。三次はどうなるのかと思っていたが、延長ということだったので。
生涯学習課長	県がどう動くか、今年度、3月ぐらい以降にでき上がるというような形で今、動いているらしい。県内ではほかの自治体でというと、上越市が今、一生懸命つくっているところらしい。三条市はどうするのかというときに、数字だけこれをリフレッシュするのはそんなに難しくはないが、そもそも課題が何なのかをよくわからずに数字を伸ばすために頑張るだけの計画は、いかななものかと思う。できれば、技術者のほうには話はしていないが、今年度はアンケートを取るなど、素材を集め、こういうふうにするんだということをまとめ上げ、来年の3月にでき上がる県の計画を踏まえて、来年度早々に三条市の計画ができないかというスケール感で考えている。
六原委員	実際、今までは、つくってやれやれみたいのところもあった。
生涯学習課長	つくるにあたって、この協議会にもいろいろとお話しさせていただく機会も出てくる。今考えているのは、そういうような形がいいかと思っているところだ。
六原委員	子ども、児童、両親も本離れは、やはりネットもテレビもそうだし、減少している分危機感を持っている。今までは語って聞かせていたものでも映像になってしまっている。想像力を伸ばすためには、やはり読み聞かせがいいのではないかと思いながらやっている。なので、子どもに対する読書活動は、喫緊の課題なんじゃないかと思う。数字を追うだけでなく、一つ一つ課題をクリアしていくというか、模索しながらやっていかなきゃいけないものだというふうに感じている。資料を見ると、伸びているという感じだが実際は？数字では伸びているのかという感じがするのだが。
生涯学習課長	いろんなことをやってはいるが、そもそも知られていない。図書館でどんなことが、というところからおそらく市民が知らない。それを図書館の人にやってくださいというわけではなく、市役所も指定管理をしているわけだから、どういう形でやったらいいのか、図書館の専門と比べると違うかもしれないが、発信の仕方は市役所も持っている。今日だけで

	<p>もたくさん課題が出てきている。その課題を1個1個つぶしていかないといけない。「そうですよねえ」で終わっているように感じる。その一つ一つをどう返していくのか、どう市民に、子どもに伝えるか。学校にちらしをまけばいいのか、公民館に置けばいいのか。それだけではないし、子どもたちが行く場所に置くことができないか。一番大事なのは、子どもを育てているお母さんとかに、興味を持ってもらうということ。お母さんが目にとめるところはどこか。銀行なのか、美容室なのか。そういうところも情報発信をする場所としてはありだと思ふし、実際そういうふうに、ほかの県ではやっている。協力してくれる企業も多いので、こういった部分の、例えば「読み聞かせがあるんです」といったときに、日時や、ターゲットになっているお母さんたちとか、おばあちゃんとか、子どもにもっと聞かせたいとか、いろんな人が入れるような形。もしかしたら絞った形のものもあってもいいかもしれないし、いろんなことに取り組みたい。悩み事も多くあるので、皆さんにいろいろと教えていただきたいと思っている。本当に三条の子どもたちは図書が好きだという文化になるように、ぜひ一緒によろしくお願ひしたい。</p>
山田委員	<p>私はブックスタートのボランティアもしている。10 カ月健診のお子さんに絵本を贈って、私自身、癒やされるひとときだ。もう5年ぐらいたつが、その感覚では、子どもが本を読まなくなっているわけではないというか、結構食いつきもいい。5冊（絵本を）読むが、もう最初から最後まで興味を持って聞いているお子さんもいて、私の5年間の間だけの推移で言えることではないかもしれないが、子ども自体の本への興味がなくなっているわけではない、そういう感じはする。</p> <p>あの10 カ月健診のひとときは、本っていうのが大事だと、私なりの言葉でお母さんにも伝えている。「図書館に行かれたことありますか」「10冊借りられるんですよ。本は高いので、どんどん借りてください」「ちょっとぐらい切れてもいいんですよ」とか。さて、その親子がうちへ帰ってからどうしたかについては、もうわからない。</p> <p>その後の健診で、ちょっとでも「どうしていますか。どんなですか」というのを、その後の読書生活について、その親子に働きかける機会があると、もう少しダイレクトに話しかけられるかもしれないと思う。10 カ月健診のときの絵本の読み聞かせのあのひとときは、すごく大事。あのダイレクトさが、ただパンフレットを置いて、「まあ、読みたい人、どうぞ」みたいな、そういうのとは違う、直接的に働きかける何かがあると思う。直接的に働きかける何かを、10 カ月健診の別の機会でもう一つ二つあると、また違うのではないかと思う。</p>
図書館長	<p>調査ではないけど、聞いてみる、選んでもらった本はどうだったって。</p>
山田委員	<p>聞いてみるというか、例えば「読書についてのお悩みはありますか」と聞いたり。または3歳児健診に「こんな本がいいですよ」みたいなのを、親子とボランティアで読み聞かせをもう1回してみてもいい。</p>
六原委員	<p>3歳児健診には、読み聞かせはないのか。</p>

山田委員	ないです。だが、同じ市でやっていることなので可能だと思う。働きかけによっては不可能ではないと思う。
梅田サブチーフ	ほかの市町村ですと、ブックスタートのフォローアップ事業で、確かに1歳半健診とか、3歳児健診で、また本を1冊・2冊プレゼントして、そこで読み聞かせをし読書活動を普及するということをしている市町村もある。私どもも、できたら予算を付けていただいて、ぜひそういったことをしたいと思っていた。
	(委員からも賛成の声)
五十嵐委員長	大変いい意見が出た会議ではなかったかと思う。課長もいっぱいアイデアを持っていらっしゃるようで、ぜひ実行していただいて、予算を取ってもらうとかというふうなことで。やはり広報とアフターフォローの意見がたくさん出た。では以上で協議を終わらせていただく。